

第46回 大阪府消費者研究発表大会 発表テーマ・概要

発表概要は、府内の消費者団体が暮らしの中のさまざまな問題に、自主的・主体的に取り組み、独自の調査・活動によりまとめたものです。

〔環境に関する問題〕

① 羽曳野市消費者団体連絡協議会 生活環境部会	
テーマ	楽しく歌って踊ってマイバッグ運動「ごみ減量 リサイクル啓発活動」
私たち生活環境部会は、平成17年より、地球温暖化防止に私たちに何が出来るか、次世代に残せるものは何かと考え、身近なことから行動を始めました。「レジ袋要りません」マイバック持参運動です。市内スーパー11店舗でのマイバック持参調査を始め、「レジ袋いりません」ポスターの掲示や環境紙芝居を手作りし、市内保育園、幼稚園、小学校の環境授業にと至っています。民謡の花笠音頭の替え歌で「袋音頭」を作成。昔から歌い継がれている民謡にのせ、歌と踊り、紙芝居の中の一部を発表します。	
② 大阪府消費生活リーダー会	
テーマ	東日本大震災に見る消費者の意識
平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、日本国民だけでなく、世界の人々にも大きな衝撃を与えました。地震、津波に加え、原子力発電所の事故により、さまざまな被害が連鎖的に起こり、今だ不安を拭えないのが現状です。原子力発電に関する意識をはじめ、発電方法、食品の購入、生活の不安など、大阪の消費者の意識に、今、どのような変化がおきているのでしょうか。アンケートを実施し、調査した結果を発表します。	
③ とよなか消費者協会	
テーマ	続けてきた青果物のトレー削減運動
1978年以来、青果物のトレー削減運動に取り組んできましたが、その目的は、ごみ発生抑制でした。この運動の推移と削減実態を報告し、この運動の今後の展望をふまえて、ライフスタイルの変革を今こそ提言したいと思い、発表します。	
④ 安全食品連絡会	
テーマ	身の回りに迫る電磁波の危険性(その3) ～アンケート結果とその後の活動～
携帯電話の危険性の発表は3回目になります。WHO 下部組織である国際ガン研究機関は、今年5月携帯電話の使用を「発ガン性の可能性あり」のカテゴリーに入れたと発表しました。日本でも、東京女子医科大学主導の疫学調査でも独自の調査報告がされています。そこで一般市民を対象に電磁波についてアンケートを取りました。その内容を生かし国や携帯電話会社に改善を求めて行きたいと思います。その結果の報告(アンケートによる)を発表します。	
⑤ 茨木市消費者協会	
テーマ	くらしを見直すエコライフ
3月11日、東日本大震災に起因する原発事故により、にわかに電力不足がクローズアップし、私たちは一丸となってできる限りの節電の努力をして参りました。今後も電力不足が予想され、かねてよりCO₂ 排出量削減が叫ばれていることも合わせ、なお一層の省エネ・省資源は不可欠のことと思われます。これらのことについて市民を対象にアンケートを実施、その集計結果を基に考察したことを発表します。	

〔食に関する問題〕

⑥ 吹田市消費者団体協議会	
テーマ	食はいのち
日本人の食生活は、米が中心でしたが、ここ30年余り大きく変化してきました。日本の伝統食である和食だけではなく、洋食、中華となんでも食べることができるようになりましたが、しかしその食べものの6割を外国に依存しているのです。農業だけでなく、漁業にも大きな変化が起きています。私たちのいのちを支える食べものの安全確保と、安心・安全な食べものを消費者として追及し、発表します。	

⑦ 日本の伝統食を考える会	
テーマ	おからの料理集『おから百珍』を出版して
「日本の伝統食を考える会」創立 30 周年を前に、昨年『おから百珍』を出版しました。会創立のエピソードにある、初代宮本智恵子代表の「何を食べてそんなに元気なんですか？」の問いに、「しょうもないもん食べてます」と答えた足さばきの良い高齢者の「しょうもないもん」の中に、「おから」もありました。七変化するおからの魅力と、栄養・健康・経済性と3拍子揃ったおから文化復活、国産大豆普及の当会の活動について発表します。	
⑧ 高槻市消費者団体連絡会	
テーマ	お米に関して！ 意識調査から
日本の主食である「お米」についての意識調査を行い、望ましい食生活・消費生活について考察しました。なお、平成14年に同様の意識調査を行っており、消費者ニーズの動向を比較検討しました。お米の購入時、特に安全性や産地を重視する人が増加している反面、袋の表示を見ない人約34%、米トレーサビリティ法を知らない人約78%などの意識調査結果が得られました。今回、分析・考察結果の詳細を発表します。	

〔くらしの問題あれこれ〕

⑨ NPO法人日本主婦連合会	
テーマ	元気で明るい生活を願う ～家族の健康を守る Part2～
家族の健康を守っている家族の主婦として、明るい生活を願っております。しかし、その家族のなかから疾患が発生すれば、忽ち、多大な心配や医療の問題で家中が暗くなり、生活も大きく不安定になってきます。特に高齢者や幼児に対して配慮せねばなりません。したがって、私たち主婦は、生活のなかで常に健康を心掛けることが重要です。そのことについて発表します。	
⑩ 岸和田市消費生活研究会	
テーマ	くらしの中の自動販売機
自動販売機のルーツは古くエジプトに遡りますが、日本の第1号は明治時代に俵谷高七が考案した、たばこを売る機械だといわれています。平成21年末現在、全国で約520万7千台普及し、約半数の259万1千台が飲料自動販売機です。消費者は「便利」と思う反面、「消費電力や景観」等の問題を指摘しています。当会では、市内の設置状況の現地調査と意識調査から実態を浮き彫りにし、自動販売機の是非等について考え発表します。	
⑪ NPO法人 消費者情報ネット	
テーマ	リボ払いは、計画的？！
リボルビング払いで「計画的な生活」「かしこい暮らし方」というCMを、テレビや新聞、電車の吊り広告などで、毎日目にするようになりました。消費者にとって、リボ払いは本当に「計画的」で「かしこい選択」なののでしょうか。私たちのグループは、リボ払いについて継続的に調査・研究をしています。そこで出てきた問題点について、コントを交え具体的に発表します。	
⑫ NPO法人住宅長期保証支援センター	
テーマ	家の維持管理、点検、リフォームの準備について
家を建てることは簡単ではありませんが、それを維持し続けることは更に難しいと思いませんか。私たちが暮らす家(住宅)は、年々経年劣化が進行していきます。それを少しでも維持管理を行って、初めて住宅の長寿命化を図ることができます。当支援センターは、家を長期間安全で快適に暮らすための維持管理、リフォーム準備について実態調査し、その結果を基に発表します。	
⑬(公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会西日本支部「商品の使いやすさとマニュアル研究会」	
テーマ	長期使用製品安全点検・表示制度についての調査研究
不幸な事故をきっかけとして、長期使用製品の安全点検制度、表示制度が2009年4月より施行されました。この制度は、日常生活の安全性に関係の深い重要なものであるにも関わらず、一般の消費者の認知度も低く、十分に浸透していないのではないか、という問題意識に基づき、わたしたちの研究会で調査研究しました。その結果を発表します。	
⑭ 東大阪市消費者団体協議会	
テーマ	防災について 減災——家族と地域との絆
最近、色々な災害が多方面で発生しております。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。防災についての研修会、見学会で学んだことや、東大阪市民のアンケート結果について発表します。	

⑮くらしを見つめるひととき	
テーマ	都市に暮らす私たちが原発を止めよう！
心配されていた地震による原発事故が起き、放射能は県境も国境も越え広い地域を汚染しました。放射線管理区域以上の線量がある場所が広く存在し、多くの子どもたち、大人たちはその中で呼吸し、飲食し、生活しています。山も、海も、大地も、自然が汚染され、食物や水道水も汚染されました。原発の危険性がはっきりと姿を見せています。福井の若狭湾に群立する 13 基の原発から約 100kmに住む私たちが原発を止めようと訴え、発表します。	
⑯NPO法人関西消費者連合会 ・八尾市消費問題研究会	
テーマ	くらしの相談から高齢者問題を考える ～安全で安心な明るい社会に～
昨今、高齢者を狙う悪質商法や認知症問題、買い物弱者などの相談が急増しています。対策として、学習会、啓発、地域見守りなど、関係機関(消費者、行政、警察、消防、地域包括支援センター、事業所など)との協議会を設置、情報交換をしながら、被害の未然防止に取り組んでいます。「高齢社会の安全・安心のくらし」を守るため、私たち消費者団体の取り組みや役割について発表します。	
⑰きんきビジョンサポート	
テーマ	身近なUD～音のサイン
まちの中では邪魔にされることも多い音のサインですが、見えない・見えにくい人にとっては重要な情報源です。電化製品に付いた音声ガイドは、見えない人だけでなく、見える人にとっても、操作を簡単にするもので、音のルールを知っていると便利です。そんなくらしの中にたくさんある音のサイン、音声ガイドの付いた製品を知っていただき、暮らしに役立てていただく、そして音の意味を少し理解していただくと思い発表します。	
⑱日本消費者連盟関西グループ	
テーマ	知ってるようで知らない原発の話
2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災。福島第一原発の 4 基が地震、津波によって爆発し、取り返しのつかない状態に陥ったまま、今に至っています。高濃度の放射能が広域に拡散し、住民、作業員など多くの方が被ばくし、食べ物も環境も汚染してしまいました。私たちの住む京阪神からわずか 100km 以内にも、大原発群が存在し、安心できません。そこで、これまで何となく知っていた原発のことを、少し詳しく調べて発表します。	
⑲全大阪消費者団体連絡会	
テーマ	府内市町村の消費者行政調査
国は、消費者庁が発足した 2009 年度から 3 年程度を“地方消費者行政強化のための集中育成・強化期間”と設定し、地方消費者行政活性化基金を造成するなど支援を行ってきました。その中で大阪府内市町村の消費者行政の強化はどのように進んでいるのでしょうか。独自調査の結果に基づいて予算などの推移を示し、今後の課題を整理して発表します。	

〔誌上発表〕

⑳ かわちながの消費者協会	
テーマ	なぜ しょう油の消費が減ってきたのか？
近年、しょう油の消費量が減少している現状を捉え、当市の量販店で、しょう油・しょう油の加工品28本を購入し、一方では大阪府内で唯一の堺市内のしょう油工場(大醬)の見学をしました。これらの資料を元に、しょう油・加工しょう油の原材料(遺伝子組換え・有機農産物)の表示などについて調査し、食の安全・安心をめざして発表します。	